

## 議会広報研修で雄勝町へ

### 読者を引き付ける編集技術学ぶ

議会広報編集特別委員会（田村剛一委員長・委員六人）では、町民の皆さんにより親しまれる紙面づくりについて学ぼうと、十月一日、宮城県雄勝町議会を視察しました。「雄勝町議会だより」は、全国議会広報コンクールで特選に選ばれ



雄勝町議会を訪ねての研修

るなど優秀な議会報を発行しています。編集は七人の委員を中心に行われ、「文字数を少なく、余白を多めに」を基本に、見やすい編集をしていることが特徴で、大胆（奇抜）な見出しやレイアウトで読者を引き付ける紙面作りを行っています。

委員らは編集方法などについての意見交換を通じて「議会報は、町民と議会のパイプ役」という編集の基本方針をあらためて認識し、町民に親しまれる広報づくりの大切さを学ぶことができました。

また、町づくりや、合併の問題などについても意見交換が行われ有意義な研修となりました。

学んだことを次に生かしながら、本誌の一層の充実を目指し委員一同これからも頑張ります。

## 「県立山田病院の充実に関する委員会」を議会に設置

山田町議会では、県立山田病院が平成17年度に改築されることから、これまでどおりの地域総合病院としての規模と機能の充実を図るため、関係機関に対し強力な働きかけや要望を行うことを目的として、議員全員による任意の委員会（昆暉雄委員長）を12月11日に設置しました。同委員会の主な活動内容は次のとおりです。

- 署名の協力依頼活動
- 「県立病院改革プラン（案）」に関する意見書の提出
- 関係者等への要望活動
- 町民への広報活動

## 議員出欠表

◎ 病气入院 □ 公務欠席  
△ 遅刻早退 ○ 自己都合

月日	本会議種別	欠席者等氏名
11月19日	第4回臨時会	△川村敬一
12月9日	第4回定例会	◎生駒利治
12月10日	〃	◎生駒利治
12月11日	〃	◎生駒利治
12月12日	〃	◎生駒利治 △山崎幸男

▼特例債を伴う合併特例法の期限（平成十七年三月末）がせまってきて、ようやく岩手県内でも、市町村合併の動きが具体化してきた感がある。▼本町の負債残高はここ九年間平均九%増加し、現在町民一人当たり六十二万円である。我が町は自立の選択を表明しているが、その道は厳しく、現在の試算では平成二十二年度には財政再建団体に転落する可能性がある。実感はわからないのだが、これは異常な状態なのである。▼国県市町村、どこも財政事情は苦しく立て直しの道を模索している。合併もそのひとつの方策である。山田町は単独で生き残るため行財政改革を実施。職員の定数削減、給与の減額、補助金の削減…。▼経費削減とサービスの維持・向上が両立できれば良いのだが、身の丈に合わせつつあると考えれば暗くならずすむのかも（黒沢）

